

作目名	えだまめ
-----	------

作型名	ハウス・トンネル栽培
-----	------------

月 旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
ハウス																									サギミドリ
トンネル																									サヤムスメ

○ は種 △定植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

岐阜・西濃・中濃

(2) 立地条件

①気象条件

平均気温20～25℃前後の温度が100日間確保され、しかも昼夜の温度較差が大きいことが望ましい。

②ほ場条件

保水力があり、排水良好な沖積土壌、さらに早だしをねらう場合には、地温上昇効果の期待できる砂質土を前提とする。

③栽植株数（10a当たり）

8,000～11,000本

(3) 目標収量（10a当たり）

800kg

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥						
				1	2	3	4	5	6	
窒素	化学肥料由来	5	5							
	有機質肥料由来	5~10	5~10							
りん酸		5~10	5~10							
加里		5~10	5~10							

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効肥料成分を測定し、それを施肥基準量から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 多肥すぎると徒長して莢つき、実張りが悪くなるので、前作、土質等を十分考慮し、窒素過多にならないように注意する。
- 3 堆肥の施用は干ばつ防止の点で有効であるが、タネバエが入りやすいので注意する。
- 4 前作の残存が考えられるので、土壌診断を行ってから施肥量を決める。

作型名	普通栽培
-----	------

月旬 作型	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品種
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
中生																																					えぞみどり
晩生																																					錦秋

○ は種 ◻ 収穫

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域

岐阜、西濃、中濃

- (2) 立地条件

①気象条件

平均気温25℃前後の温度が確保され、しかも昼夜の温度較差が大きいことが望ましい。

② ほ場条件

保水力があり、排水良好な沖積土壌。

(3) 栽植本数 (10 a 当たり)

5,600~8,400本

(4) 目標収量 (10 a 当たり)

1,000kg

○施肥基準

(1) 施肥基準量 (10a当たり・kg)

施肥成分	総 量		基 肥	追 肥					
				1	2	3	4	5	6
窒 素	化学肥料由来	5	5						
	有機質肥料由来	5~10	5~10						
りん 酸		5~10	5~10						
加 里		5~10	5~10						

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 2 生育期間が短く、マルチ栽培であるので、全量基肥栽培を原則とする。
- 3 多肥すぎると徒長して莢つき、実張りが悪くなるので、前作、土質等を十分考慮し、窒素過多にならないように注意する。
- 4 堆肥の施用は干ばつ防止の点で有効であるが、タネバエが入りやすいので注意する。
- 5 前作の残存が考えられるので、土壌診断を行ってから施肥量を定める。
- 6 黄化症防止や根粒菌の活性を高めるため、土壌酸度を6.0を目標に石灰肥料を施用する。